



《将来に向けた取組方針》

富士通グループは、ネイチャーポジティブの達成に向け国際目標（昆明・モンリオール生物多様性枠組）に沿った、2050年あるべき姿と2030年中期目標、2025年短期目標（第11期環境行動計画）を策定。

- ・あるべき姿：持続可能な社会の基盤である『自然・生物多様性』をデジタル技術により十分回復させ、自然と共生する世界を実現する。
 - ・中期目標（2030年）：サプライチェーンを含む自社の企業活動の領域において、生物多様性への負の影響を25%以上低減する（基準年度：2020年）。加えて、生物多様性への正の影響を増加させる活動を推進する。
- （短期目標（2025年）における生物多様性への負の影響の低減率は、12.5%以上。）

生物多様性への負の影響を低減する活動

評価指標として「**エコロジカル・フットプリント**」を選定し、算定方法を確立

- ① 2030年グローバルターゲットの目標15の指標として、SBSTTA24から提案された、科学的知見から選定された指標
- ② 企業活動全体を包括的に評価可能

エコロジカル・フットプリント (EF) 評価による重大な負の影響要因の特定

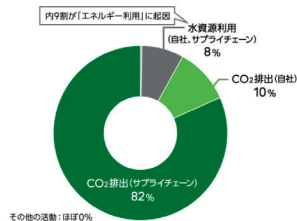
富士通グループの企業活動におけるエコロジカル・フットプリント評価の結果：

- ・自社およびサプライチェーンにおける「CO₂排出」が要因の92%を占める
- ・残り8%の「水資源利用」は主に「エネルギー利用」に起因

➔ 「**CO₂排出**」と「**エネルギー利用**」で要因の99%を占めることを特定

➔ 生物多様性への負の影響を低減するためには、**気候変動対策が有効**

富士通GにおけるEF算定結果（2020年度） - 企業活動別割合 -



TNFDへの対応

TNFDの主旨に賛同し、**TNFD Adopterに登録**
今後TNFDフレームワークの開示推奨項目に沿って、2024年以降開示し、開示内容を順次更新していく予定。TNFDフォーラムにも参加。

生物多様性への正の影響を増加させる活動

自然共生サイト認定（環境省）を取得し、**30by30の達成に貢献**

富士通沼津工場は、約53haの工場敷地の80%弱を工場緑地が占め、地域の貴重な生物多様性を育む場となっている。自然環境保全と景観整備、従業員と近隣住民が自然環境を学ぶ場の提供を目的とした緑地管理を実施。

環境省の「自然共生サイト」に認定。



富士通沼津工場

資金、技術、人材などの提供により**生物多様性保全を支援**

① シマフクロウの音声認識プロジェクト（日本）

絶滅危惧種であるシマフクロウの生息域調査のため、音声認識ソフトウェアを提供。鳴き声の録音データ解析において、自動抽出が可能となり、解析時間は大幅に削減、効率的な調査および調査地域・調査頻度の拡大に貢献。



シマフクロウ
(写真提供：日本野鳥の会)

② 熱帯雨林ハラパンの森の支援（インドネシア）

インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林「ハラパンの森（Forest of Hope）:約10万ha）における森林保全活動への支援を継続的に実施。喫緊の課題である森林火災や違法伐採へ対処するための森林パトロールに、デジタル技術を導入することで、森林パトロールの効率化および効果の向上を支援。森林破壊への適切な対応が期待でき、森林保全に貢献。



Forests of Hope site:
Hutani Harapan
(写真提供：Hutani Harapan)